



2025 年 9 月 1 日

暑い夏

公益財団法人 国際通貨研究所
理事長 浅川 雅嗣

今年も暑い夏が続いています。私は今年の2月まで5年間、フィリピンのマニラに本部があるアジア開発銀行（ADB）という国際機関に勤務しておりました。マニラも暑いところですが、東京のほうがじめじめした感じが強く、より過ごしにくいような気がします。振り返ってみれば、2024 年は世界的に、観測史上最も暑い夏でした。さて今年の夏はどうなるのでしょうか？

アジア地域では温暖化の進行は世界平均を超えており、特に南アジアと東南アジアに対する影響が最も大きいと予測されています。ADB でも、気候変動への対応という文脈の中で、猛暑に対する取り組みを活発化させようといろいろ議論しています。

猛暑、熱波のことを英語で **heat wave** といいます。heat wave は経済活動の隅々にわたってさまざまな影響を及ぼします。第一に、猛暑が引き起こす疾病の増加は、保健システムへの負担を増大し、妊産婦、高齢者、子供、健康上の問題を抱える人々が高リスクに直面します。第二に、猛暑は失業や労働時間の調整、生産性の低下、インフラへのダメージ等を通じて経済活動を顕著に阻害します。第三に、猛暑は水不足問題を悪化させ、飲料水、農業、生態系の健全性や生物多様性に大きな影響を与えます。そして第四に、忘れてはいけないのが女性への影響です。そもそも女性は非正規雇用の割合が高い点に加え、妊娠期の脆弱性、猛暑がもたらすジェンダーにかかわる暴力の増加、水不足、洗浄設備の不足、基本的な医療サービスへのアクセスの困難さといった数多くの課題を有し、多くの途上国で不当な影響を現に受けています。

世界全体の CO2 の半分以上はアジア・太平洋地域から排出されています。他方で、同地域は気候変動に由来する種々の自然災害に対して最も脆弱な地域となっています。そこで、2021 年にイギリスのグラスゴーで行われた COP26 に際し、ADB では気候変動問題に関していかなる貢献ができるかを、内部で真剣に検討しました。その結果として、例えば 2019 年から 2030 年までの 12 年間に ADB が行う気候変動融資額のターゲット（1,000 億ドル）を定めると同時に、エネルギーポリシーを改定して新規の石炭火力発電には融資は行わないことなどを決めました。石油、天然ガスに対する融資に関しても、厳格なクライテリアを設けました。また、既存の石炭火力発電所を予定より早く廃炉さ

せるためのファイナンスの仕組み（ETM, Energy Transition Mechanism）や、ドナーの保証を利用して ADB の気候変動融資額を増加させるメカニズム（IF-CAP, Innovative Finance Facility for Climate in Asia and the Pacific）を提案、具体化させました。ADB は、アジア・太平洋地域の気候変動バンクになると宣言したのです。

米国で大統領がトランプ氏に代わり、気候変動問題に関する米国のスタンスが大きく変わることになると思われます。しかし、気候変動は現に起こっており、それに対応するための資金需要も現実には巨額に上ります。各国政府、国際機関、そして民間部門が一体となって、持続可能な地球環境を目指すべきだと思います。

（IIMA メールマガジンへの寄稿）

当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、何らかの行動を勧誘するものではありません。ご利用に関しては、すべて御客様御自身でご判断下さいますよう、宜しくお願い申し上げます。当資料は信頼できると思われる情報に基づいて作成されていますが、その正確性を保証するものではありません。内容は予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。また、当資料は著作物であり、著作権法により保護されています。全文または一部を転載する場合は出所を明記してください。

Copyright 2025 Institute for International Monetary Affairs（公益財団法人 国際通貨研究所）

All rights reserved. Except for brief quotations embodied in articles and reviews, no part of this publication may be reproduced in any form or by any means, including photocopy, without permission from the Institute for International Monetary Affairs.

Address: Nihon Life Nihonbashi Bldg., 8F 2-13-12, Nihonbashi, Chuo-ku, Tokyo 103-0027, Japan

〒103-0027 東京都中央区日本橋 2-13-12 日本生命日本橋ビル 8 階

e-mail: admin@iima.or.jp

URL: <http://www.iima.or.jp>